困難な問題を抱える女性への支援のための施策の実施に関する東京都基本的な計画(案)からの主な変更点

NO	項目	変更点	最終案 ページ
1	目次	第4章の部分を詳細に記載	—
第1章 困難な問題を抱える女性への支援に関する基本的な方針			
2	5 支援に関わる関係機関等 (4) 女性自立支援施設	<p>女性自立支援施設の説明に、下線部分を修正、追記</p> <p><u>入所者には、性暴力や性的虐待、性的搾取等の性的な被害を受けている方も多く、心身の健康等の回復には、時間を要する場合があります。女性自立支援施設は、安心できる環境で本人の状況に応じた回復支援を行います。</u></p> <p>[主な支援内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 困難な問題を抱える女性の入所を受け入れて、その保護を実施 ✓ 入所者の心身の健康の回復を図るための医学的又は心理学的な援助を実施 ✓ 自立の促進のためにその生活を支援 ✓ <u>入所中に自分らしく生活できるようなプログラムを提供</u> ✓ 入所者が同伴した児童に対する学習及び生活、遊びに関する支援を実施 ✓ <u>入所者が同伴した児童の発達支援及び母子関係安定のための支援を実施</u> ✓ <u>退所者に対して相談その他の援助を実施</u> 	8,9
3	5 支援に関わる関係機関等 (4) 民間団体等 など	<p>アウトリーチについて、以下の注釈を追記</p> <p>本計画では、民間団体等による支援や東京都立（総合）精神保健福祉センターにおける支援において「アウトリーチ」という言葉を使用しています。支援する側が巡回や訪問、ICTの活用等により困難な問題を抱える女性に声をかけ、支援につなぐ取組を「アウトリーチ」としています。</p>	9

NO	項目	変更点	最終案 ページ
4	5 支援に関わる関係機関等 (5) その他の関係機関	女性が抱える困難な問題について、「配偶者や親族からの暴力」を「親族や配偶者等」からの暴力に修正しました。	10
第2章 都における困難な問題を抱える女性への支援の現状			
5	(2)女性相談支援センターが受け付けた電話相談の内容 (3)女性相談支援センターが受け付けた来所・出張相談の内容 2 女性相談支援員の現状 (5)女性相談支援員が受け付けた電話・手紙による相談内容 (6)女性相談支援員が受け付けた来所・出張・巡回による相談内容	戸籍上の性別が同一である関係も含まれるよう、「夫婦関係」を「配偶者との関係」、「男女関係」を「交際相手等との関係」、「夫の暴力」を「配偶者の暴力」と修正しました。	11,12, 17,18
6	3 女性自立支援施設の現状 (2) 女性自立支援施設の入所者の入所理由	住居問題と帰住先なしについて、説明を追記しました。	19
7	3 女性自立支援施設の現状 (3) 女性自立支援施設の入所者の入所期間の状況	各施設ごとの定員を追記しました。また、令和6年4月に施行される「女性自立支援施設の設備及び運営に関する基準」では、居室の定員は原則1人となりますが、経過措置として既存の施設は改築までは、居室の定員は、4人以下という従前の基準にすることができるとされていることも追記しました。	20
第3章 計画の目指す5つの基本目標			
8	計画の目指す5つの基本目標	基本目標1の説明について、下線部分を追記しました。 女性が抱える困難は、年齢や国籍、障害の有無、 <u>配偶者の有無、同居家族がいる、単身世帯であること</u> 等により様々です。	22

NO	項目	変更点	最終案 ページ
第4章 都における困難な問題を抱える女性への支援に関する取組			
9	1 困難な問題を抱える女性への支援の基本的な考え方	⑦の個人情報の取り扱いに関することについては、困難な問題を抱える女性本人だけでなく、 <u>女性の同伴家族も含まれることを追記</u>	23
2 都における困難な問題を抱える女性支援に関する課題及び今後の取組			
(1) 対象者の把握から地域での自立			
10	ア 相談体制の整備等による対象者の早期の把握	「繁華街での見回り」について、若年被害女性等支援事業やNO3における本計画でのアウトリーチの考え方に基づき、「繁華街での巡回・声掛け」に修正しました。	24
11	ア 相談体制の整備等による対象者の早期の把握	若年被害女性等支援事業を実施している民間団体が行うアウトリーチの事例（コラム）を掲載しました。	25
12	イ 気軽に立ち寄れる居場所の整備	若年被害女性等支援事業を実施している民間団体が行う居場所の事例（コラム）を掲載しました。	28
13	ウ 多様な一時保護先の確保	以下の通り修正しました。 ・女性相談支援センターが一時保護する女性の例として、「妊婦」を「妊産婦」に修正 ・一時保護所で保護の対応ができていない方について、表現を見直し「 <u>現在の一時保護所の環境では、中学生以上の男子を同伴する方、性自認が女性のトランスジェンダーの方、ペットの同伴を希望される方等の保護については、対応できていない状況です</u> 」としました。	30
14	エ 専門職や性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター等と連携した心身の健康回復及び法的課題の解決	「侵害された人権の回復」について追記しました。	32
15	オ 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援	女性自立支援施設における支援に、大学等に通う方への支援として、オンライン学習に対応するため、Wi-Fiを配備するなど学習環境を整備を追記しました。	34

NO	項目	変更点	最終案 ページ
16	オ 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援	区市町村障害者就労支援事業について「東京都障害者・障害児施策推進計画」を踏まえた記載としました。	36
17	オ 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援	障害のある方への支援に「東京都立（総合）精神保健福祉センター」の事業についてコラムとして掲載しました。	37
18	オ 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援	ひとり親家庭への支援に記載のある、国の令和6年度要綱にあわせて、「面会交流」を「親子交流」に修正しました。	38
19	オ 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援	地域生活への移行に向けた支援について、ステップハウスの利用は、 <u>利用者の状況に応じて推進</u> することを追記しました。	38
20	オ 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援	様々な施策の周知について、「女性相談支援センターや女性相談支援員、女性自立支援施設を通じて」を「女性相談支援センターや女性相談支援員等を通じて」に修正しました。	38
21	キ 予期せぬ妊娠や特定妊婦等への支援	<p>以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを「予期せぬ妊娠や特定妊婦等への対応」から「予期せぬ妊娠や特定妊婦等への支援」に修正しました。 ・課題に、「支援者には、本人の意向や状況によっては、特別養子縁組や里親制度等を紹介することも求められる」ことを追記しました。 ・女性自立支援施設で行う支援について、下線部分を追記しました。 <p>特に妊産婦を主な支援対象としている女性自立支援施設では、産前産後の健康を考えた食事の提供、出産の準備、入院の同行、<u>心理的なケア</u>から、授乳や沐浴など日常的な育児等<u>だけでなく</u>、産後の女性の今後の生活を見据えた自立支援を行います。</p>	39
22	ク 東京で生活する女性の多様なニーズを踏まえた相談支援	<p>以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高年の単身女性等が計画の対象となることがわかりやすくなるよう、課題に下線部分を追記・修正しました。 <p>（略）障害のある方、若年、高齢者、外国籍の方、<u>配偶者のいる方・いない方、同居家族のいる方や単身世帯の方</u>など様々な方がいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県から都に来られた方の相談等について、他県等と適切に連携することを追記しました。 	40

NO	項目	変更点	最終案 ページ
(2) 本人の意思や意向の尊重			
2 3	イ 本人の意向を踏まえた個別支援計画の作成、ケース会議への本人の参加	<p>今後の取組を以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の作成にあたっては、「本人が抱える課題やその背景等を本人とともに整理する」ことを記載しました。 ・国の示した基本方針に基づき、「個別ケース検討会議は、<u>健康状態が許さない場合等の例外を除き</u>、原則本人も参加して開催」としていましたが「<u>健康上の理由がある場合等の例外を除き</u>」と表現を修正しました。 	41
(3) 同伴児童への支援			
2 4	ア 同伴児童への心理的サポート等の実施	女性相談支援センターや一時保護委託先が行う同伴児童の保育について、女性の状況だけでなく、 <u>同伴児童の状況</u> に応じて実施することを追記しました。	44
2 5	エ 児童相談所、子供家庭支援センター、教育機関等との連携による支援	<p>女性相談支援等の退所後の母の状況や児童の状況の情報提供について、「必要に応じて」を削除し、以下の通りとしました。</p> <p>「女性相談支援センターや一時保護委託先の施設の退所後に、同伴した児童が安全かつ安心して地域で生活していくためには、児童相談所や子供家庭支援センター等の関係機関に、母の状況や児童の保護中の様子など必要な情報を共有することが必要です」</p>	44
(4) 若年女性への支援			
2 6	ア 関係団体等と協働した若年女性等支援の推進	「繁華街での見回り」について、若年被害女性等支援事業やNO3における本計画でのアウトリーチの考え方に基づき、「繁華街での巡回・声掛け」に修正しました。	46
2 7	イ 関係機関・民間団体等と連携した悪質なホストクラブでの被害やトラブルへの対応	<p>以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルに<u>民間団体等</u>を追記しました。 ・今後の取組に、「民間団体と協働し、繁華街での巡回・声掛けやSNSを活用した相談等により、悪質なホストクラブでの被害にあっていいる女性も含め、困難な問題を抱えた若年女性を把握し、必要な支援につなげる」ことを追記しました。 	46

NO	項目	変更点	最終案 ページ
28	ウ 関係機関・民間団体等と連携した「トー横」問題への対応	<p>以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルに民間団体等を追記しました。 ・今後の取組に、「民間団体と協働して、トー横を含め繁華街での巡回・声掛け等のアウトリーチ支援を行い、若年女性を状況に応じて必要な支援につなげる」ことを追記しました。 	47
29	エ 予期せぬ妊娠や特定妊婦等への支援	<p>以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを「予期せぬ妊娠や特定妊婦等への対応」から「予期せぬ妊娠や特定妊婦等への支援」に修正しました。 ・課題に、「本人の意向が尊重され、安心して相談支援を受けられることが重要である」ことを追記しました。 ・今後の取組に、「女性相談支援センターでは、児童相談所からの依頼に基づき18歳未満の妊産婦の一時保護を行うこと」を追記しました。 ・女性自立支援施設で行う支援について、下線部分を追記しました。 <p>特に妊産婦を主な支援対象としている女性自立支援施設では、産前産後の健康を考えた食事の提供、出産の準備、入院の同行、<u>心理的なケア</u>から、授乳や沐浴など日常的な育児等だけでなく、産後の女性の今後の生活を見据えた自立支援を行います。</p>	48
(5) 困難な問題を抱える女性への支援基盤、関係機関との連携・協働			
30	ア 女性相談支援センターの体制強化・機能強化	<p>スーパーバイズについて、以下の注釈を追記しました。</p> <p>スーパーバイズでは、今後のよりよい支援につなげていくことを目的に、困難な問題を抱える女性に対して行った支援について、アドバイスをを行い、その支援の振り返りを行います。</p>	51
31	イ 女性相談支援センターと児童相談所との連携強化	<p>「18歳未満で支援が必要な若年女性については、児童相談所からの依頼に基づき、女性相談支援センターが一時保護を行う」ことを追記しました。</p>	51

NO	項目	変更点	最終案 ページ
3 2	工 女性自立支援施設の体制強化	<p>以下の通り修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に、「女性自立支援施設の退所者に対しては、入所していた施設が食生活、健康管理、金銭管理等の日常生活に関する相談や行政機関等への同行支援を行っています。退所者が地域での生活を継続するためには、施設からの支援が重要である」ことを追記しました。 ・課題に対応する今後の取組として、「女性自立支援施設を退所した方が、地域社会で継続して安定した生活を営めるよう、自立に必要な相談、援助を行う女性自立支援施設を支援すること」を追記しました。 	5 2
3 3	キ 支援調整会議の設置及び基本計画策定の推進	自治体と民間団体が連携・協働して行う支援の事例（コラム）を掲載しました。	5 6
3 4	キ 支援調整会議の設置及び基本計画策定の推進	自治体が行う支援調整会議の設置の参考となる事例（コラム）を掲載しました。	5 7
その他			
3 5	全体	パブリックコメントを踏まえ、「性犯罪・性暴力被害」を固有名詞である「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」を除き、国の示した基本方針を踏まえ、「性暴力や性的虐待、性的搾取等による性的な被害」に修正しました。	—